

大阪市を襲った室戸台風による浸水被害の検証

—寝屋川流域での高潮—

木 谷 幹 一 *

I. はじめに

大阪市では昭和9(1934)年9月には室戸台風、昭和25(1950)年9月にはジェーン台風、昭和36(1961)年9月には第2室戸台風と阪神地方における昭和の3大高潮災害¹⁾が起こり、その都度行政機関による災害・復興記録などを記した書誌が相次いで刊行され²⁾、次世代への伝承活動が行われてきた。それらのうちで室戸台風は、地域連合会や各学校園によって慰霊行事が毎年行われ、現在まで伝承活動が継続している。まさに大阪市ひいては大阪府を代表する地域伝承災害であると言えよう。また室戸台風被害に関係する石碑も大阪市内には28箇所建立されている。28箇所という多さからも地域を代表する伝承災害であることが裏付けられる³⁾。筆者は淀川流域の水害と人間活動を研究する中、慶応4(1868)年5月には増水した淀川を遡上して京都府の久御山町^{いもあらい}一口まで到達した高潮記録⁴⁾、明治18(1885)年7月には淀川を遡上して門真市南部から東大阪市^{とくあん}徳庵まで到達した高潮記録⁵⁾を地元の文書、新聞や石碑で確認した。これらの昭和以前の高潮災害事例か

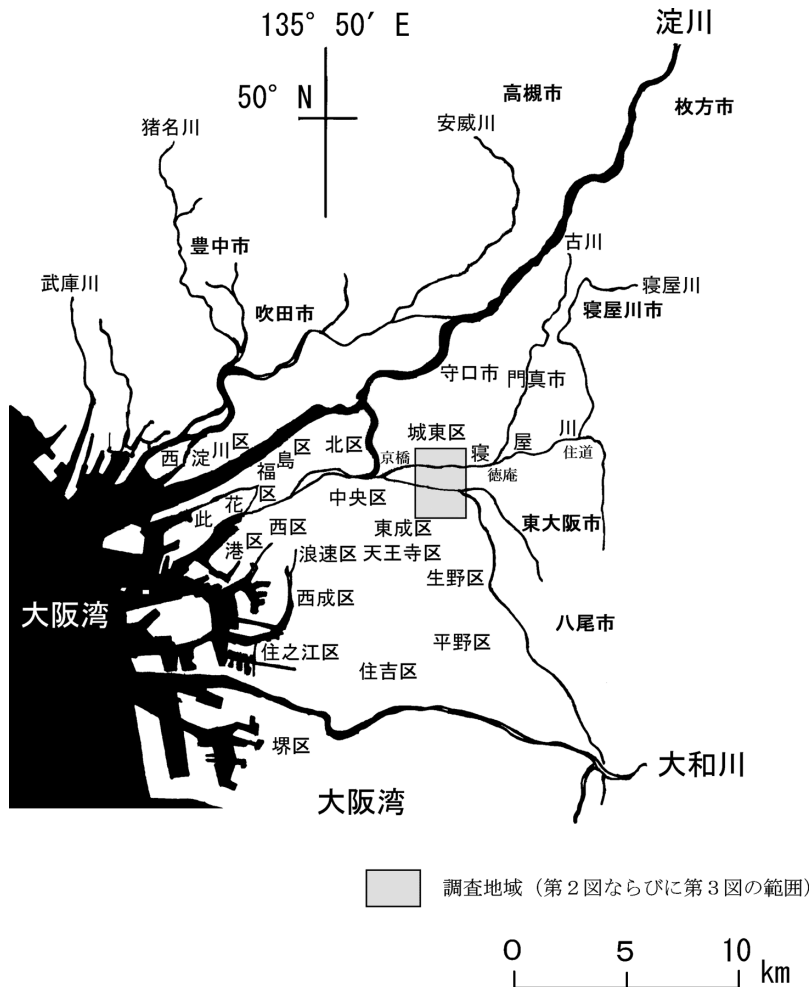
ら見ても、昭和の3大高潮災害による浸水地域は、大阪湾岸地域つまり西大阪地区に限定すべきではない。高潮は津波より、毎年台風等の熱帯低気圧の襲来によって発生する身近な災害である。これら昭和3大高潮災害についても高潮が西大阪地区のみだったのか自治体誌以外の資料からも再検証すべきである。急速な都市化に伴う災害、例えば用排水路・下水道からの逆流による浸水被害などは西大阪地区以外にもあったと考えられる。さらに大阪市危機管理室が発行しているハザードマップ⁶⁾には津波災害と河川災害のシミュレーションだけが示されていて、高潮は想定されていない。谷端⁷⁾は室戸台風の高潮災害の地域的差異について検討をしている。これは寝屋川への高潮の遡上や下水道の逆流現象を大阪市風水害誌の71～72頁および108頁⁸⁾で確認しながらも、寝屋川流域、城東区新喜^{しぎ}多・蒲生・鴨野地区(第1図および第2図参照)の浸水は河川氾濫と判定し、高潮被害は西大阪地区に限定して考察を行っている⁹⁾。

しかし室戸台風時(9月21日)の大阪市での雨量は19.5mm¹⁰⁾にとどまっていて、大阪市では風害と高潮被害だけで河川の増水に

* 大阪市立成育小学校

キーワード：室戸台風、浸水被害、寝屋川、大阪市城東区、昭和9年

Key words : Muroto Typhoon, Inundation disaster, Neyagawa River, Joto-ku Osaka city, 1934AD (the Showa period 9th.)



第1図 地域概観図

図示した市区は、室戸台風に関する石碑が建立されている市区である。石碑の分布調査には以下の文献等を参考にして現地確認した。木田伍一郎・山内鉄太郎「市内河川に関する碑石・埋立状況に関する調査報告書」、大阪市土木局業務論文報告集3、大阪市土木技術協会、1980、743-765頁。大阪市内中央図書館編『大阪市内の史跡（記念碑等）索引』、大阪市内中央図書館、1981、44頁。川端直正編『大阪市内における建碑』、大阪市内役所行政局、1960、182頁。

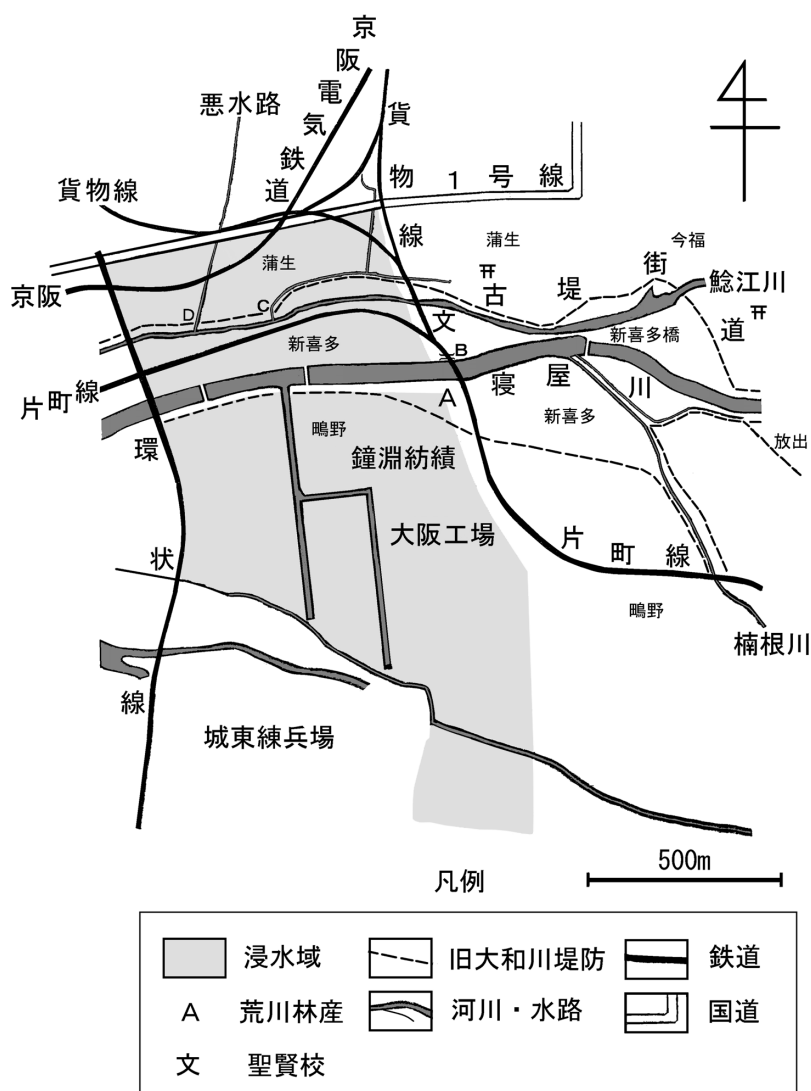
伴う氾濫はほとんどなかったと考えられる。今回新たな記録を確認したので、室戸台風襲来時の寝屋川流域の浸水域を検証し、さらに高潮による浸水域も考えてみたいと思う。

II. 寝屋川流域における高潮記録

筆者は大阪市立聖賢小学校（第2図参照）

で室戸台風被害から五十回忌にあたる追悼行事「室戸台風遭難者追とうの会」に関連する資料を見る機会を得た。内容は記録文集案と記録文集、被害写真で構成されていた。

記録文集は昭和58（1983）年9月21日の「室戸台風遭難者追とうの会」に向けて記念文集案がまとめられ、当時 鯨江第二尋常小学校（現・聖賢小学校）教諭だった竹神稲二



第2図 大阪市風水害誌の浸水域

大阪市風水害誌の巻頭の浸水図を昭和44年12月発行の大日本帝国陸地測量部1万分の1地形図「大阪東部」に記入した。

郎によって「昭和9年室戸台風による遭難の思い出」¹¹⁾ というタイトルの記録文集として大阪城東ライオンズクラブから発行された。この経緯については昭和58年9月20日の毎日新聞大阪版の夕刊記事(9頁)にも書かれている。

記録文集は全31頁で、1～2頁はまえがき、

3～12頁が台風被害記録、12～15頁が被害者救出記録、16～19頁が葬儀記録、19～20頁が跡片付け、21～25頁が学校再開記録と合同追悼祭、26～30頁が死亡者・重軽傷者名簿、31頁あとがきという構成である。

そのうち寝屋川の高潮被害記録は11頁にあった。以下の「」部分は記録文集の抜粋部

分である。

9月21日登校時(午前8時前後)、風によって^{なまづえ}鯉江第二尋常小学校(現・^{せいけん}聖賢小学校)の便所と正門校舎以外の主たる校舎だった南・北校舎が次々と倒壊した後、北校舎で下敷きになった児童・教員を救出するために、軍隊が救援に来ることが知らされた直後、「川の水位が逆流する高潮によってどんどん増してきた。増して来たと云うゆっくりではない。逆流は白浪をたてて、自動車が走るよりも速いスピードで押し寄せて来た。海から遠い上流のこの辺まで高潮が襲うとは思ってもよらぬことだが、水面に浮いた雑物を白浪がけとばして、押寄せる逆流は道路上にも水位を越上げて浸水だ。東進してやってくるトラックも水につかって路上に動きのとれない状態になった。ガード下の低いところで、今までのガムシャラの突進を断念してストップ。このトラックが軍隊だった。学校の所在を知らせると全員飛びおりて学校に駆けつけてくれた。」とある。

Ⅲ. 寝屋川流域の高潮被害の復元

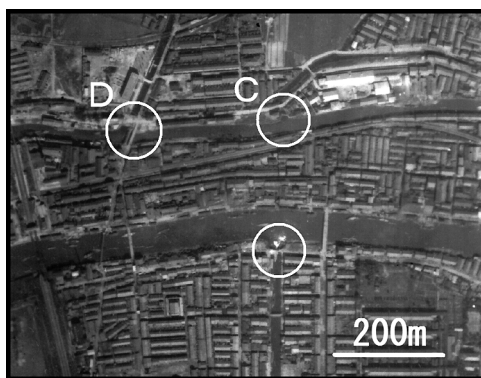
文章中のガードとは^{なまづえ}鯉江第二尋常小学校(現・^{せいけん}聖賢小学校)西南の高架橋のことで、ガード下の低いところとは寝屋川右岸沿いの道路と片町線(現・JR学研都市線)が立体交差しているところ(第2図のB)になる。大阪市風水害誌の860頁には、軍隊はトラックを利用して午前9時30分から作業開始した¹²⁾とある。大阪市風水害誌の72頁には寝屋川の^{しぎた}新喜多橋(第2図)で高潮の記録として午前9時20分、O.P.+3.44mと¹³⁾あり、^{しぎた}新喜多橋は^{なまづえ}鯉江第二尋常小学校(現・^{せいけん}聖賢小学校)より400m程度東に位置するので、おそら

く9時20分より少し前に軍隊のトラックがガード下に来て高潮に遭遇したのであろう。

この記録から寝屋川右岸沿いの道路に高潮が遡上してきたことがわかる。これは大阪市風水害誌巻頭の大阪市風水害浸水地域図でも浸水域として示されている寝屋川流域の浸水域が高潮によるものであったことがわかる。また^{せいけん}聖賢小学校蔵の室戸台風被害写真でも校庭まで高潮によって浸水した跡が写っていた。これは大阪市風水害誌巻頭の大阪市風水害浸水地域図では示されていない浸水域である。おそらく高潮による浸水域はさらに拡大する可能性があるだろう。次に寝屋川流域で浸水した地域を考えてみることにしたい。

第2図は昭和4(1929)年12月発行の大日本帝国陸地測量部1万分の1地形図「大阪東部」を参考到大阪市風水害誌巻頭の大阪市風水害浸水地域図¹⁴⁾のうち、城東区における寝屋川流域の浸水域を転記したものである。

浸水域は寝屋川を境にして南側、つまり^{しぎ}鳴の野地区は旧大和川(現・寝屋川)左岸堤防周辺が浸水していないので、旧大和川堤防は越えなかった。旧大和川堤防の途切れた部分の

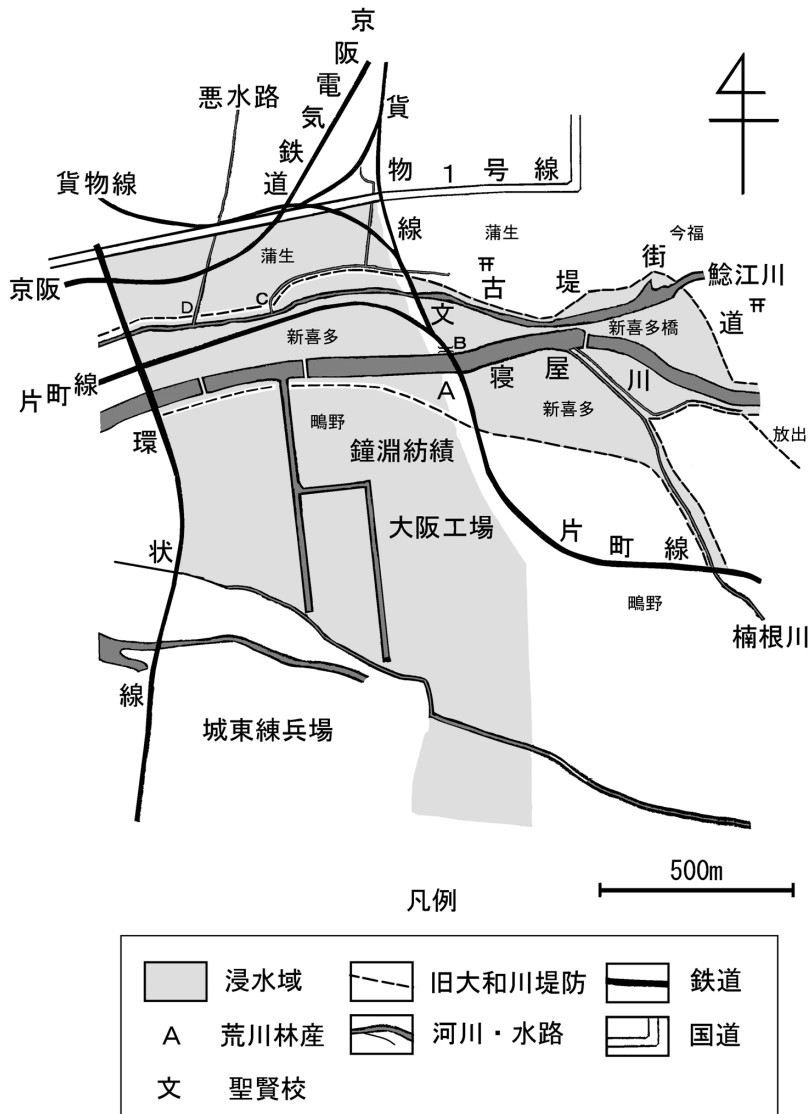


第3図 昭和3(1928)年10月撮影の航空写真
大阪市都市計画局蔵「大阪市航空写真(昭和3年)」のうち、138～139番から作成した。

用水路（通称カネボウ運河）から高潮が遡上して浸水した（第3図の○印）と考えるべきである。旧大和川左岸堤防の堤外地に立地していた荒川林産化学工業（現・荒川化学工業）株式会社^{しぎの}鳴野工場（第2図のA）では、「川沿いのドラム缶が流失する被害を受けた。¹⁵⁾」とあるので、寝屋川沿いの工場敷地

にはドラム缶群が配置してあったこととそれらが流出する程度の流量と流速の水が流れていた、つまり寝屋川流域の高潮が堤外地に遡上してドラム缶を流失させたことも読み取れる。

北側の^{しぎの}新喜多・^{がもう}蒲生地区は旧大和川堤防を越流して、国道1号線の土手まで浸水してい



第4図 室戸台風襲来時の高潮による推定浸水域
第2図を基に、文献11) および文献15)、さらに現地調査により範囲の推定を行った。

る。旧大和川堤防は現在古堤街道と呼ばれていて大阪城京橋口から住道（大東市）まで続いている現・寝屋川右岸の堤防で、この堤防を越流したのか、対岸では堤防を越流していなかったのか疑問が残る。古堤街道の標高 O.P. 4.0 m ～ 4.5 m である。新喜多橋での高潮は O.P.+3.44 m なので、古堤街道を越流した可能性は低い。竹神の記録にも古堤街道を高潮が越流したことは記されていない。

これは左岸の事例から水路から侵入したと考えるべきである。古堤街道には鯉江川に流下する悪水路（第2図の C・D、第3図の○印 C、○印 D）が横断していて、堤防が途切れている。これらの途切れた部分から高潮が侵入し、蒲生地区が浸水し、国道の土手で浸水域の拡大が止まったと読み取れる。

以上から寝屋川流域では古堤街道付近までは、高潮による浸水域があったと考えるべきであろう。ここまでの考察に基づいて浸水域を修整したのが、室戸台風襲来時の高潮による推定浸水地域（第4図）である。これを見ると旧大和川堤防までの旧堤外地（地名では新喜多）は確実に高潮によって浸水していたことがわかる。これは鴨野地区では荒川林産化学工業鴨野工場の被害記録¹⁵⁾や聖賢小学校蔵の室戸台風被害写真からも裏づけられる。同時に南北方向への浸水域の拡大は堤防の途切れた部分から高潮が侵入していた可能性が高い。

IV. まとめと今後の課題

以上、大阪市風水害誌で示された特定の浸水域について検証を行った。城東区新喜多・蒲生・鴨野地区に示された浸水域は、小学校や工場の記録から、寝屋川を遡上した高潮が

旧大和川堤防の途切れた部分にあった水路から入り込み、浸水した場所であった。同時に旧大和川堤防が高潮の遡上を防いでいた可能性があるため、大阪市風水害誌で示された浸水域の修整も試みた。

なお今回は大阪市風水害誌で示された一部の浸水域に関する疑問の検証である。自治体等の発行した災害記録は非常に利便性が高いことは認めるが、それだけで解析を行えば、単なる浸水被害であっても、高潮に伴うものか、河川の増水に伴うものか判断を間違えることがある可能性を示唆した。

今後ジェーン台風、第二室戸台風なども自治体や公社による災害誌を地理学の立場で客観的に吟味を行い、同時に小学校区または中学校区単位程度の情報の収集を行って、児童を通じて地域としみじみと心が通い合う¹⁶⁾ような地域災害伝承活動に寄り添いつつ、生活者視点での地域災害の再検証をしていきたい。

〔謝辞〕本稿は、元大阪教育大学助手で枚方市教員の児島昌雄先生が主宰する授業改善研究会「麦塾」での討議で育まれてきたものである。「室戸台風避難者追うの会」の資料は、大阪市立聖賢小学校校長・甲斐清二先生に見せて頂いた。立命館大学歴史都市防災研究所若手研究者の谷端郷氏には、寝屋川流域における浸水域に関する詳細図を確認させて頂いた。大阪市立中央図書館おおさか資料室には、大阪市内における室戸台風に関する記念碑調査に関して、教示頂きました。記して皆様に謝意申し上げます。

注

- 1) 例えば①木田伍一郎「西大阪の高潮災害とその対策」、大阪春秋 82、1996、42-49 頁。②大阪管区気象台編『大阪の気象百年』財団法人日本気象協会、1982、312 頁。
- 2) 例えば①大阪役所監査部『大阪市風水害概要』、大阪役所監査部、1934、125 頁。②大

- 阪市『大阪市風水害誌』、大阪市、1935、1226 頁。
- ③大阪府『暴風水害概要』、大阪府、1934、165 頁。
- ④大阪府『大阪府風水害誌』、大阪府、1936、910 頁。
- ⑤堺市『堺市風水害誌』、堺市、1936、754 頁。
- ⑥岸和田市編『岸和田市風水害概要』、岸和田市、1935、122 頁。
- ⑦電気協会関西支部電気工作物風水害予防調査会編『電気工作物風水害予防調査委員会調査報告書』、電気協会関西支部、1935、259 頁。
- ⑧日本工人倶楽部関西支部『近畿風水害復興調査報告』、日本工人倶楽部関西支部、1935、43 頁。
- ⑨大阪商工会議所編『風水害に依る大阪産業の被害概況』、大阪商工会議所、1934、189 頁。
- 3) 現在大阪府全体では 53 碑で、うち学校および寺社や墓地に建立されているものは 43 碑を確認している。
- 4) 木谷幹一「『慶応事件記』に記録された慶応 4 年の高潮災害」、立命館地理学 27、2015、69-75 頁。
- 5) 木谷幹一「淀川流域の「態と切」とは何だったのか」、京都歴史災害研究 17、2016、1-7 頁。
- 6) 例えば大阪市危機管理室「津波・水害から命を守るために水害ハザードマップ」、大阪市、2015。
- 7) 谷端郷「1934 年室戸台風にみる大阪市における高潮災害の地域的差異」、歴史地理学 56-5、2014、1-16 頁。
- 8) 前掲 2) ②、71-72 頁、108 頁。
- 9) 前掲 7)。
- 10) 前掲 1) ②、312 頁。
- 11) 竹神稲二郎「昭和 9 年室戸台風による遭難の想い出」、城東ライオンズクラブ、31 頁。
- 12) 前掲 2) ②、860 頁。
- 13) 前掲 2) ②、72 頁。なお新喜多橋の、O.P. + 3.44 m は、前掲 2) ⑦、41 頁を見ると、推定値（推定方法は不明）であることが確認できる。
- 14) 前掲 2) ②、巻頭の図。
- 15) 荒川林産化学工業株式会社社史編さん室編『荒川林産百年史』、荒川林産化学工業株式会社、1977、99 頁。
- 16) 重松鷹泰「心の通い合う授業」、児童心理 30-4、1976、53-60 頁。